

トピックス…②

# EUの生乳・乳製品の短期需給見通し

2022年に入り、EUでは乳製品価格が記録的な高水準で推移している。この状況は日本を始め、多くの乳製品輸入国の需給構造にも大きな影響を及ぼすことが懸念されている。そこでEU委員会が発表した「Short-term outlook SUMMER 2022」の中から、生乳・乳製品需給の現状と今後の見通しを紹介する。

## 1. 生乳・乳製品需給の概要

2022年夏、EUの乳製品価格は記録的な高水準にある。ホエイパウダーの価格はわずかに下降しているが、脱脂粉乳(SMP)と全脂粉乳(WMP)の価格は高水準で比較的安定しており、他の乳製品は上昇し続けている。これらの状況は、EUの生乳価格を記録的な高水準に押し上げている。それにもかかわらず、高い生産コストのために酪農場の利益率は依然として厳しいままである。

春の乾燥した暖かい気象条件は、牧草の品質と入手可能性、飼料の給与比率に影響を及ぼし、EUの生乳生産量は2022年初頭の予想(0.4%増加)よりも低くなる可能性がある。さらに、異常気象は飼料価格の上昇による飼料給与量の減少を引き起こしており、乳牛飼養頭数の減少(1%減少)と相まって、2022年の生乳生産量は前年比べて0.6%減少すると予想されている。牧草の品質低下と給与量減少は、生乳の乳脂肪とタンパク質含有量も低下させる可能性があり、乳製品生産における乳固形分の利用可能性をさらに低下させる可能性がある。

このような状況の中、EUのチーズとクリーム生産は増加を続け、バターとWMPの生産のための乳脂肪の入手可能性を低下させる可能性がある。一方、チーズの輸出は増加すると予想されており、小売売上高とフードサービスの持続的な回復、および生乳価格の乳製品価格への限定的な価格転嫁を前提に、乳製品の域内消費は昨年よりわずかに増加(0.3%増加)する可能性がある。

## 2. 生乳の需給見通し

### (1) EUの乳製品価格は過去最高を更新

EUの乳製品価格の上昇傾向は続いている。2022年の年初から6月中旬まで、SMPとチーズで約25%、バターとWMPで約30%上昇した。ホエイパウダーの価格(16%)はこれに遅れをとっている。SMPの価格は、ロシアのウクライナ侵攻による最初の急上昇の後、いくらか緩和し現在は安定しているが、バターとチーズの価格は上昇し続けている。SMPとは対照的に、WMPの価格上昇傾向は緩和されず、ウクライナ侵攻以来高水準に止まっている。

ほとんどの乳製品の価格は記録的な高水準にある。6月中旬には、バター価格は7,300ユーロ/トン近くに達し、SMP価格は4,000ユーロ/トン以上、WMP価格は5,200ユーロ/トン近くに達した。対照的に、ホエイパウダーの価格は低いレベル(1,300ユーロ/t)にあり、他の製品と比較して、ウクライナ侵略が始まって以来低下傾向さえ示した。

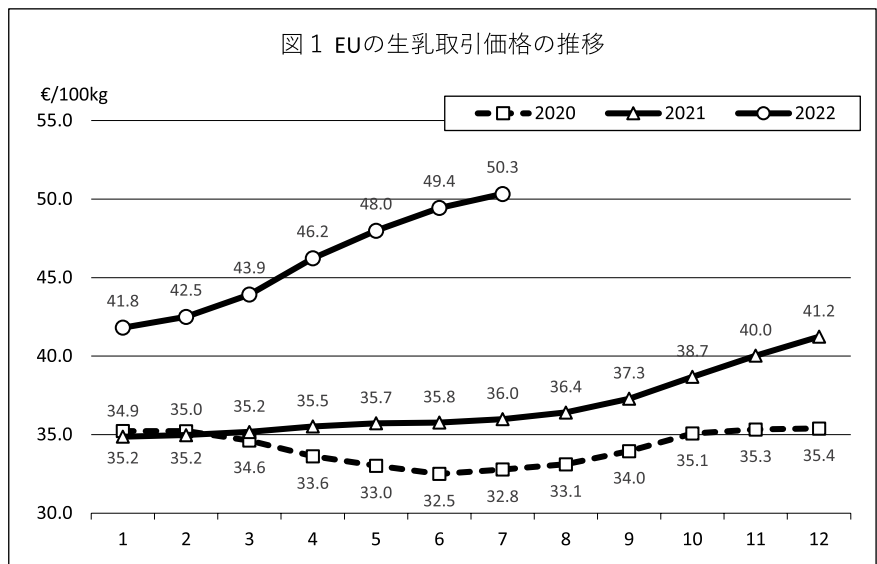
このような状況の下、EUの生乳価格は上昇し続け、5月には過去5年平均を40%上回る約48ユーロ/100kgとなり、その後も上昇傾向にある(図1参照)。SMPとバターの価格に基づく生乳換算価格も依然として高いままである。両者の関係を考慮すると、生乳価格の上昇傾向は今後数カ月間続くと予想され、季節的な価格緩和は今後も起こらない可能性が高い。しかし、生乳価格の上昇にもかかわらず、酪農場の利益率は、飼料や物流コストを含む高い投入コストが続いているため、依然として厳しいままである。

### (2) 生産コスト高が生乳生産の伸びを抑制

EUの記録的な乳製品価格の上昇は、他の主要輸出国(オセアニアと米国)に対して、国際市場におけるEUの競争力の低下を引き起こす。6月中旬において、EUのチーズは、米国価格の9%安で、世界で2番目に低い価格のため輸出競争力があるものの、バターとWMPでは最低国際価格(オセアニア価格)を30%以上上回り、SMPは米国価格の5%高である。

世界の生乳供給の伸びは、2022年も限定的なままにとどまる可能性が高い。米国の酪農地帯の一部では、暖かく乾燥した天候と高い生産コストが、乳牛飼養頭数が増加しているにもかかわらず、生乳生産の大幅な拡大を抑制する要因と考えられている。それにもかかわらず、米国全体の生乳生産の伸びは依然として確実であると言われている。

ニュージーランドの場合も、高い生産コストは酪農場の収益性に悪影響を及ぼす可能性があるが、牧草の給与割合が比較的高いため、世界の他の酪農主要国よりも影響は緩和される。生乳生産量の増加は気象条件によって



資料：EU No 2017/1185 Article 12(a)

注) 生乳取引価格は、ルクセンブルグを除く26か国の加重平均である。

表1 2022年5月におけるEUの食品消費者価格（2005年=100）

	平均価格	前年対比	前月対比
食品全体	153.0	10.3%	1.9%
パン・シリアル	155.3	11.9%	1.9%
食肉	151.0	11.4%	2.4%
牛乳・チーズ・卵	148.6	11.6%	2.7%
食用油	188.2	27.8%	5.0%
砂糖	131.3	5.5%	1.4%

資料：EU PRICE DASHBOARD No120-May 2022 edition

異なるが、昨シーズンの比較的低いレベルを考慮すると、今後の見通しは依然として肯定的である。

### （3）EUの生乳出荷量は予想を下回る

2022年1月から4月にかけて、EUの生乳出荷量は前年に比べて0.6%減少した。主要生産国の中で、ポーランド、イタリア、デンマークのみが増加（それぞれ+2.4%、+0.4%、+0.6%）し、ドイツ、フランス、オランダは減少傾向（それぞれ-1.7%、-1.3%、-2.3%）が続いた。アイルランドも、昨年の非常に高いレベルと比較して減少（-0.7%）した。スプリング・フラッシュ期の暖かく乾燥した天候（牛に暑熱ストレスを引き起こし、牧草や穀物の生長に影響を与える）は、飼料の高騰とドイツでの非遺伝子組替飼料調達の困難さと相まって、乳脂肪とタンパク質の利用可能性の低下にもつながり、1～4月はともに0.8%減となった。

今後数カ月の天候見通しは、中欧・東欧やイタリアにおける牧草の増産にとって否定的なままである。飼料用作物価格の高騰が続くことと相まって、牧草の減産は農場の経営に悪影響を及ぼし、2022年にはさらなる飼養頭数減少（-1%）につながり、生産量の増加率の低下（春の短期見通し+1%より少ない+0.4%）につながる可能性がある。その結果、2022年におけるEUの生乳出荷量は、主に第2四半期の減少（-1%）により0.6%減少し、さらに第3四半期と第4四半期（どちらも-0.6%）も減少が続く。これは、次に述べるように世界的な乳製品需給の逼迫を引き起こすであろう。

## 3. 乳製品の需給見通し

### （1）EUの乳製品消費量は依然として増加する可能性

EUにおける乳製品の消費者（小売り）価格は、国際乳製品価格の上昇に比例しては上昇していない。2022年5月には、牛乳、チーズ、卵を合わせた消費者価格の年率変化は11%を超えたが（表1参照）、牛乳（全乳で約14%、低脂肪牛乳で13%近く）、バター（26%以上）で比較的高く、ヨーグルト（9.5%）、チーズ（10.6%）で比較的低かった。それにもかかわらず、乳製品の消費量は、他の食品のさらに高いインフレ率の下で、フードサービスの継続的な回復に支えられて、全体的に0.3%増加すると推定されている。2020年と2021年のロックダウン期間の後、蓄積された個人貯蓄は消費者物価の上昇をある程度相殺する可能性が高い。同時に、低付加価値製品への切り替えも想定され、消費者物価の上昇は消費量に中立的な影響を与える可能性がある。

世界の乳製品需要は、中国の経済成長の影響を大きく受けている。中国では、年初にロックダウンが失業率の増加につながり、消費の回復を抑制し、蓄積された在庫の放出を妨げ、すべての要因が2022年の乳製品の需要に悪影響を及ぼした。一方、石油輸出国は石油価格をある程度上昇させたことから恩恵を受ける可能性がある。もう一つの肯定的な需要拡大シグナルは、世界的なインフ

レ傾向による悪影響が少ない東南アジアで観察される。

### （2）乳脂肪の需給見通し

EUの生乳供給量が2022年に0.6%減少すると予想されている中で、EUのチーズ生産量は0.5%増加する可能性がある。これは、輸出成長率2%増が期待される世界市場での競争力のある価格と、主に米国向け輸出の増加と英国向けの回復によるものであり、域内小売売上高の安定とフードサービスの回復と相まって、2020年より2%多かった昨年の消費水準を維持する可能性がある。

製造に乳脂肪を使用する他の乳製品の中でも、EUのクリーム生産は、中国からの需要が2021年より減少したとはいえ、域内および世界の需要に支えられて増加（+1%）すると予想されている。中国の乳脂肪需要の減少は、牛乳を飲む習慣を弱める可能性があり、また域内消費がわずかに減少（-0.4%）する可能性もある一方で、EUの食料支援計画（FDP：Food Distribution Program）による輸出は依然として2%増加するであろう。

しかし、乳製品での乳脂肪の利用可能性が低下する別の可能性がある。とくにEUのバター生産は、輸出がわずかに回復している一方で、域内消費が低迷しているため、減少（-1%）すると予想されている。バター生産の減少は、在庫の削減（-35,000 t）になると予想されている。また、WMP生産も減少（-5%）する見込みで、輸出（-8%）と国内向け（-3%近く）ともにマイナスである。

### （3）乳タンパク質の需給見通し

粉乳の中では、チーズ生産の増加にともないホエイパウダーの生産のみが増加（+1%）すると予想されている。ホエイパウダーの現在の価格水準を考えると、一部の加工用途では他の粉乳より安価な代替品であると依然考えられており、これが域内需要の増加（+2.4%）を支えている。反対に、EUの輸出量は、主に中国の需要減少にともない減少（-2%）する可能性がある。

生乳出荷量の減少、乾燥施設（粉乳工場）の稼働エネルギーコストの高騰、一部の輸出先における需要の弱体化、輸送コストの上昇等による乳タンパク質の入手可能性の低下は、2022年のSMP生産量の減少（-1.5%）と輸出量の減少（-5%）につながる可能性がある。EUのSMP価格は現在米国よりも競争力が低く、中国とアルジェリアは年初に輸入を減らしたため、1～3月の輸出量の減少（-22%）が大きかった。しかし、米国との価格差は比較的小さいため、EUの輸出は今後数ヶ月で増加する可能性があり、生産が減少すると予想されることもあり、これにともない在庫が減少する見込みである。また、WMP価格が高水準で推移しているため、価格に敏感な地域においては、SMPがFFP（Fat-Filled powder、SMPに植物性油脂を転嫁した製品）の製造に使用される可能性もある。